

古人の髪型に関する研究

～埴輪からのメッセージ～



伊勢崎市立第一中学校 1年5組

井上 楓子

返却希望

●研究の動機

私は小学生のころ歴史の授業で始めて古人について詳しく学びました。その際に歴史人物の髪型や服、アクセサリなどを見ると、当たり前ですが現代人とは違う点が多くみられました。私はそもそもなぜ古人の格好がわかるのか、どうしてそのような格好をしていたのか、特徴や、性別や年齢による違いがあるのかなど様々な疑問を抱いていました。そして今年の夏、高崎市にあるかみつけの里博物館という古墳時代の埴輪や当時を再現した模型が展示されている考古学博物館に行って、古墳時代の人の格好は人物埴輪という当時の人々の様子が表された埴輪から推測されたということを知りました。



かみつけの里博物館

また、博物館で展示されている埴輪や、群馬県にある埴輪から自分で古墳時代の人の格好を予想できるのではないかと思いました。そこで私は改めてこれらの疑問に向き合う機会だと感じ、その中の古人の髪型に焦点を当ててこの研究としてまとめることでより多くの人に群馬県の魅力を発信しようと考えました。



●埴輪について

埴輪とは、古墳時代の日本に特有の器物のことで古墳の上や周囲に並べ立てられた素焼きの焼き物のことです。埴輪は王の眠る古墳という聖域を守ったり自慢の馬や武具を並べて權威を示したり生前の儀式の様子を表したりするために作られたとされています。埴輪の構造は基本的に中が空洞になっていて、粘土で紐を作り、それを積み上げていきながら形を整えて作られました。埴輪の起源は、吉

備地方という現在の和歌山県で生まれた土器にあるとされています。そこから円筒埴輪と壺形埴輪に
 発展し、さらに家形、器財形、動物形、人物埴輪が作られるようになりました。

◎埴輪と土偶の違い

埴輪と土偶は作られた時代や作る目的なども違います。
 また、埴輪は土偶と違い武人や巫女など、一体一体の
 もっている意味や役割がはっきりしています。土偶は
 意図的に壊すことで願いや祈りを込めたりしていたた
 め埴輪より壊れた状態で見つかることが多いそうです。

	埴輪	土偶
時代	古墳時代	縄文時代
出土場所	古墳	集落など
形	円筒形、人、 動物、家など	基本的に女性
目的	古墳という聖域 を守ったり、被 葬者の権威を示 したりするため	安産や豊穰など を祈るため
大きさ	1m 以上	2~45 cm

埴輪は当時政治経済の中心であった近畿地方だけでなく、そこから遠く離れた群馬県でも盛んに
 作られていました。その埴輪の質の高さと量の多さから群馬県は日本一の埴輪県と呼ばれています。

○埴輪の数の多さ

右の図を見ると6位以下で表記されている関東地区の古墳は
 ほとんどが群馬県にあることがわかります。古墳がたくさん
 あるということはそれと共に埴輪が作られた数も多いともい
 えます。実際に群馬県では大型の古墳はもちろん、小さな古墳
 も含め埴輪が並べられた古墳が非常に多く、たくさんの埴輪が
 出土しています。全国的に埴輪があまり作られなくなる6世紀
 後半にも群馬県の地域では埴輪をたくさん作っていました。

No.	古墳名称	所在地	墳丘長 (m)
1	大仙古墳 (仁徳陵)	大阪府堺市	486
2	菅田御厨山古墳 (応神陵)	大阪府羽曳野市	425
3	上石津ミサンザイ古墳 (雄略)	大阪府堺市	365
4	遠山古墳	岡山県岡山市	350
5	河内大塚山古墳	大阪府松原市・羽曳野市	335
28	太田天神山古墳	群馬県太田市	210
45	舟塚山古墳	茨城県石岡市	186
49	浅間山古墳	群馬県高崎市	172
52	円籠寺茶臼山古墳	群馬県太田市	168
62	白石権持山古墳	群馬県藤岡市	155
65	荒天山古墳	茨城県常陸太田市	151
68	七興山古墳	群馬県藤岡市	150

※墳丘長は新たな計測により変更される場合があります。
 ※6位以下は関東地区の古墳を掲載

古墳の大きさランキング

○埴輪の質の高さ

日本で初めて国宝に指定された掛甲武人埴輪や、令和2年9月に国宝となった綿貫観音山古墳出土の埴輪を見ると服や髪形、手先までもが、非常に細かく再現されているのがわかります。私が実際に見た埴輪も服などに模様やおうとつがついていて細部まで作り込まれているのがよくわかりました。昔、今の藤岡市や太田市あたりに埴輪の一大生産地があり、そこには熟練の埴輪職人がいたと考えられています。



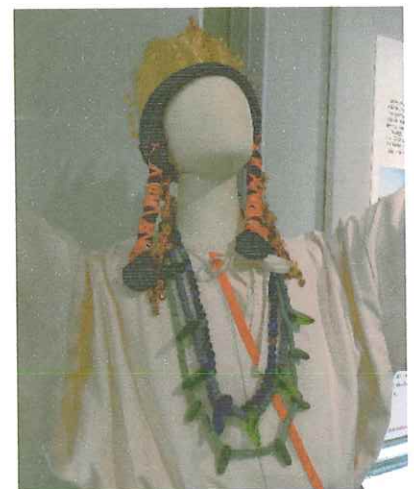
綿貫観音山古墳出土の埴輪



掛甲武人埴輪

●古墳時代の髪型

埴輪をよく見ると古墳時代の人々の暮らしや様子がある程度知ることが出来ます。人物埴輪には王や巫女だけでなく農夫や盾を持った人など様々な身分の人の様子を調べる手がかりがあります。どのような推測がされているのか今回のテーマである髪型を中心に調べてみました。



埴輪の手がかりをもとに
再現された当時の王

○男性の髪型

男性は髪の毛を耳の前あたりで両方に2つにまとめて紐でくくって留めた「美豆良」という髪型

をしていました。美豆良は耳の下では結いません。古代の日本の髪型でしたが、中国漢代の画像石のなかに、その髪型をした人物がみられるので、おそらくその源は中国文化の伝来によるものだと考えられています。



上げ美豆良

身分が低い男性の儀式の髪型は上げ美豆良といったそうです。また反対に身分の高い男性の儀式の髪型は下げ美豆良とっていました。美豆良が小さくて簡素なものは農夫や馬飼、大きく長く装飾的なものは権力者や武人だとされています。時代が下ると美豆良は未成年の髪型になりました。おそらく平安時代には8の字美豆良はありません。

○身分の低い男性の髪型（上げ美豆良）



前から見たとき



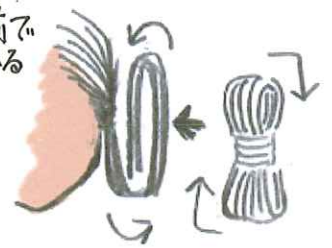
飾りをつけたり紐でむすんだり髪を巻きつけたりする。

横から見たとき

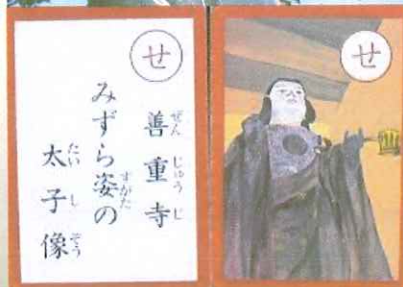


耳の前でしはる

結び方



この髪型は飛鳥時代を生きた聖徳太子や平安時代を生きた菅原道真などの像に彫られていて聖徳太子像は水戸郷土かるたの題材にもなっています。このことから古墳時代だけでなくその後の時代でも美豆良の髪型は使われていたのだと思います。



聖徳太子像と水戸郷土かるた



菅原道真

○身分の高い男性の髪型（下げ美豆良）



前から見たとき



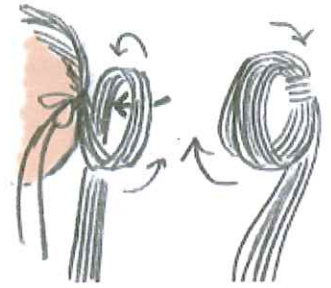
つける飾りは鈴、紐などが多い。

後ろは垂れ髪

横から見たとき



結び方



この髪型は上げみずらに対して複数の解釈があります。元結を締めるために櫛をさしたり、紐を髪に巻き付けたりしていたと思われていて、つけているアクセサリーによっても印象が違います。中には分銅形でも輪状でもないものも美豆良と呼ばれていることがあります。埴輪の髪型を美豆良とする根拠である、古事記や日本書紀などには左右に分けてあることが知られているだけで結い上げた形にまで言及がされていません。つまり、左右に2つに分けていれば美豆良といえるということになります。

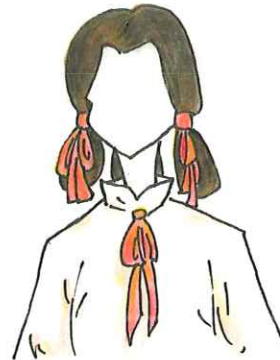
髪につけている飾り
 ○玉飾り
 ○鈴
 ○紐



○鈴



○紐



○鈴



○女性の髪型

女性は、弥生後期～古墳時代にかけて邪馬台国を治めたとされる卑弥呼のように髪の毛を自然のまま後ろに垂らす「垂髪」という髪型や、髪の毛を前後に分けて折り曲げ、その中央を紐で結び、さらに前が崩れないように櫛で留めた「古墳島田」という髪型をしていました。垂髪は埴輪に表されているのを見なかったのが時代や身分が少し違ったのかもしれないと考えました。のまた、古墳島田に草花や葉を飾りとしてつけていることもありました。古墳島田は日本の結髪の前になっっているのではないかと推測もあります。

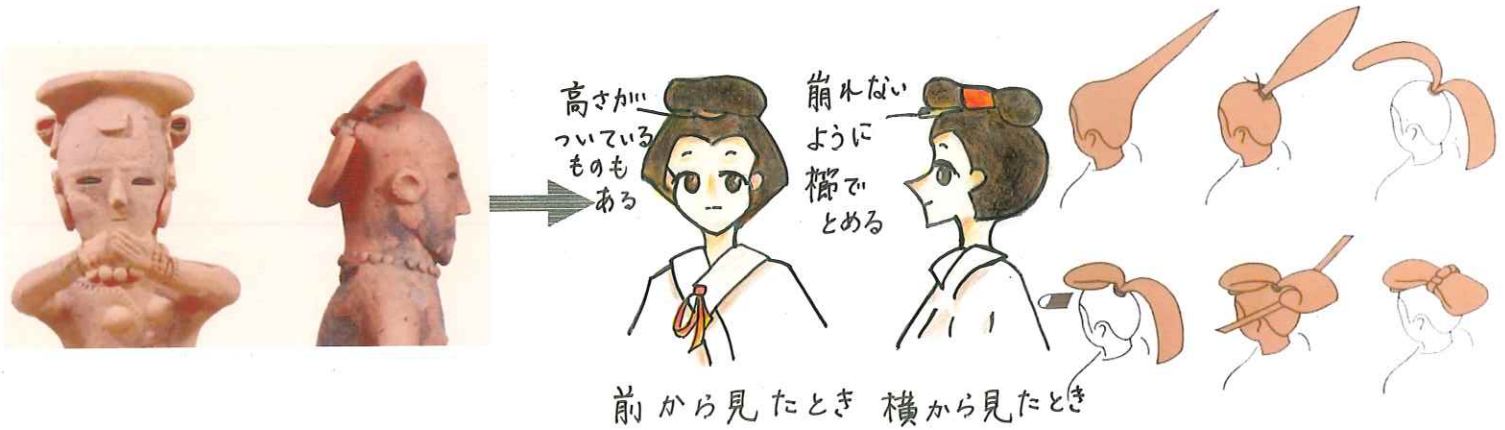


卑弥呼の垂髪



古墳島田

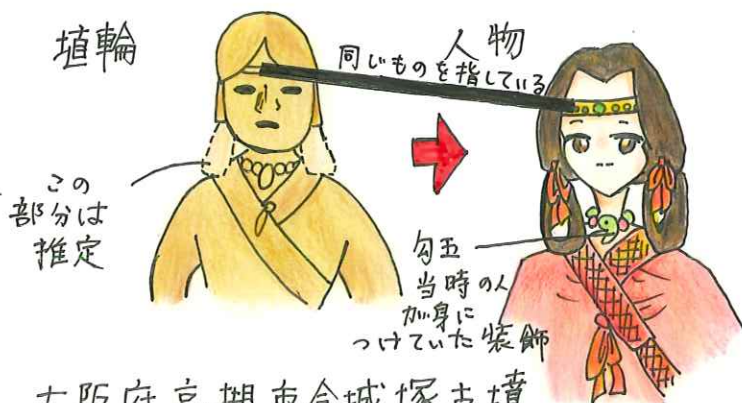
さらに「日本書紀」によると垂れ髪をはちまき状のもので押さえていたという記述が、中国の「後漢書東夷伝」には、前髪を垂らし後ろの髪を曲げて束ねている、といった記述があり同じ時代でも年齢や地域、身分の差などによって、様々な髪型があったようだと考えられています。埴輪の造形としては、厚みのある板を頭の上に乗せているような形が多いです。



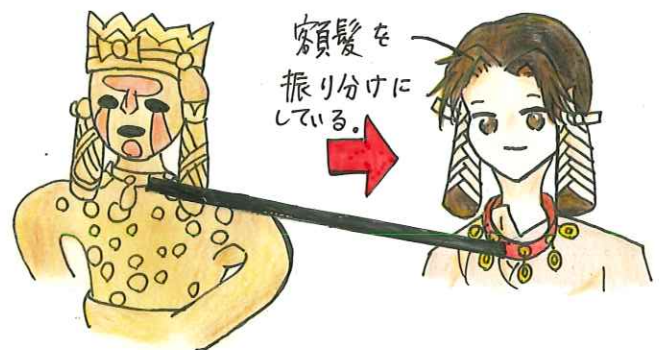
●どのような埴輪からどのような髪型が推測されているのか

自分で埴輪から髪型を推測する前に他の実例を見てどのような推測がされているのかを知ろうと思ひ、調べた例をいくつかあげようと考えました。

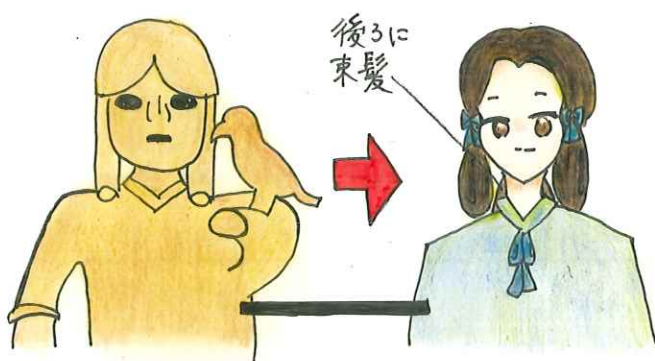
奈良県 三宅町石見遺跡



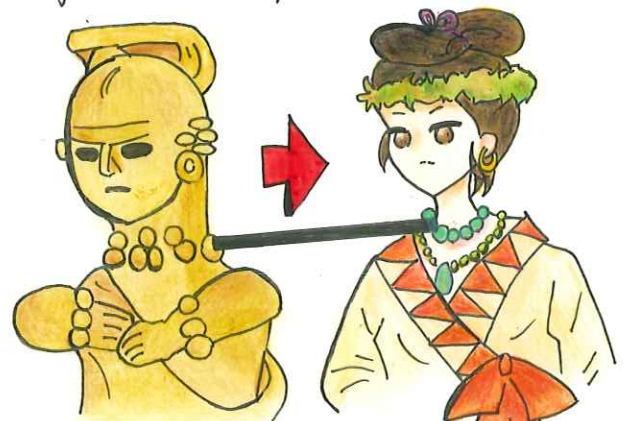
元群馬県高崎市出土



大阪府高槻市今城塚古墳 復元埴輪群



埼玉県東松山市大谷三千塚古墳

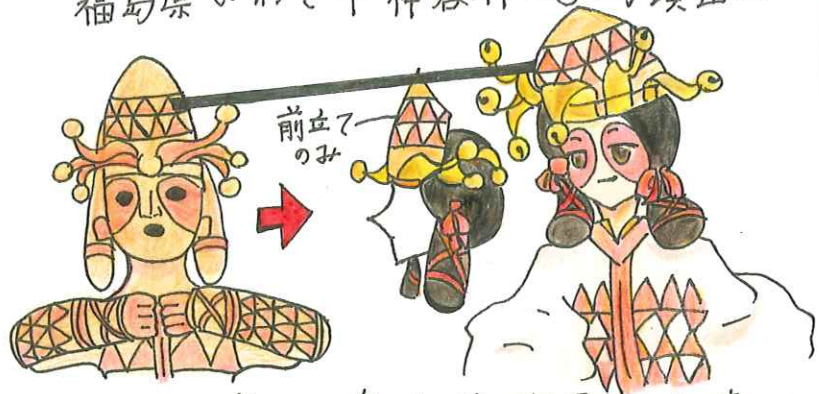


伝群馬県赤堀村出土(個人蔵)



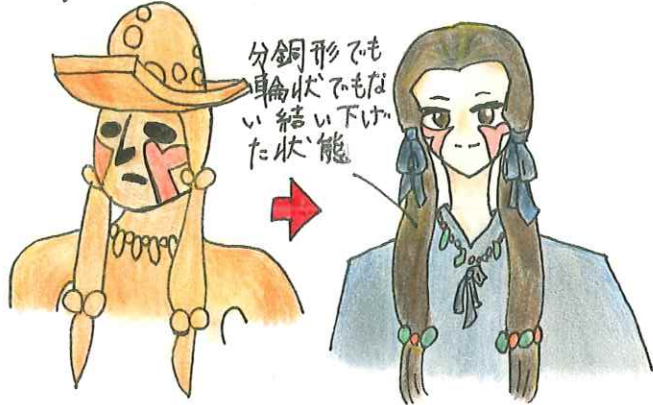
化粧は
祭祀の為
と考えられて
いる

福島県いわき市神谷作一〇一〇号墳出土



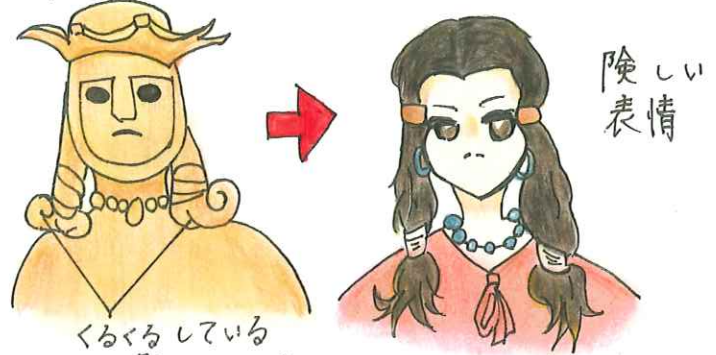
前立て
のみ

群馬県太田市塚廻り3号墳



分銅形でも
輪状でもない
結い下げた
状態

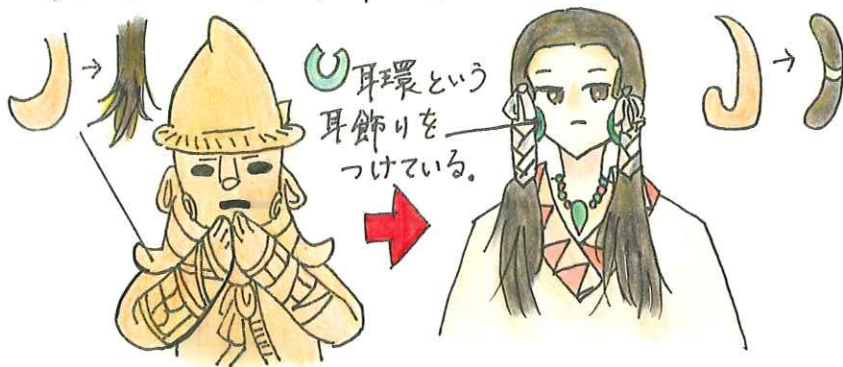
埼玉県東松山市大谷雷電山古墳



険しい
表情

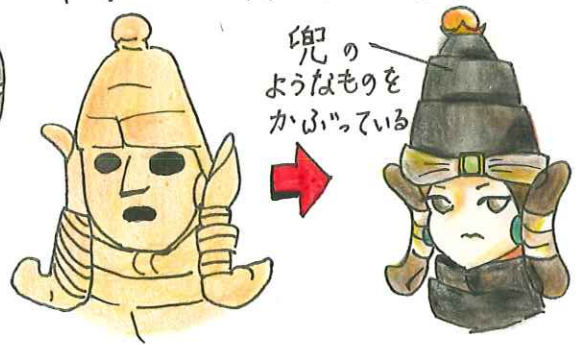
くるくるしている
髪の毛を表している

群馬県高崎市綿貫観音山古墳



耳環という
耳飾りを
つけている

東京国立博物館蔵



兜の
ようなものを
かぶっている

群馬県由良出土



複数の解釈がある

東京国立博物館蔵



小さい美豆良
であることから
身分が低いと
考えられる

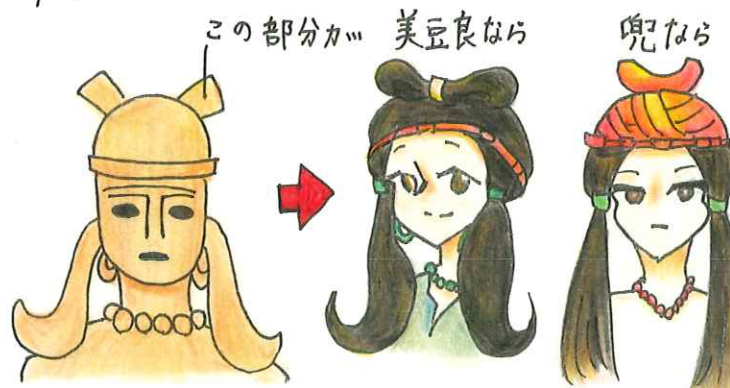
埼玉県鴻巣市生出塚埴輪窯跡



大きめの
振り分け

首飾りをし
て下げる美豆良
なので身分
が高いと考えられる

常陸国筑波郡小野川村大字横場



この部分か 美豆良なら

兜なら

●博物館で見た埴輪から髪形を予想

博物館で見た埴輪には、調べてもあまり見ないものがあつたので自分なりに髪型を想像してみようと思ひました。また、その埴輪から推測される古人はどのような身分、年齢、性別だつたのかなどを自分が調べた資料などを参考に考えてまとめました。

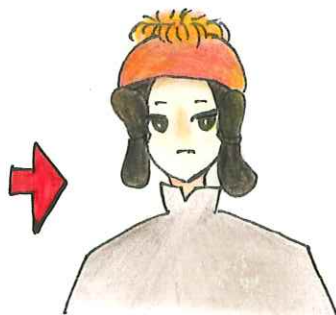
盾持人埴輪 保渡田八幡塚古墳



○盾持人埴輪としてつくられたものは簡略化されたものが多い手や足がないものがあるため髪の実現もされてないことかあるのではないかと考えた。



○髪は上げ美豆良男性で身分が低い。
○上の帽子のようなものは真ん中の部分がへこんでいる。



○髪は上げ美豆良男性で身分が低い。
○帽子の先に毛を束ねたようなものかっているのではないかと考えられる。

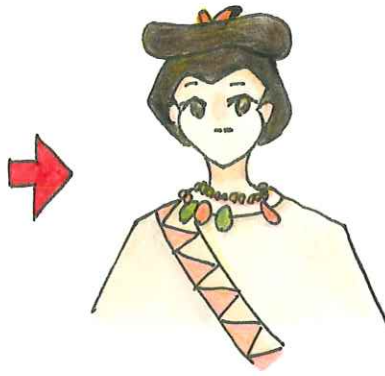
武人埴輪（複製品） 高崎市箕郷町上芝古墳



○甲冑に身を固めている完全武装をした人物。
○髪は下げ美豆良男性で身分が高い。



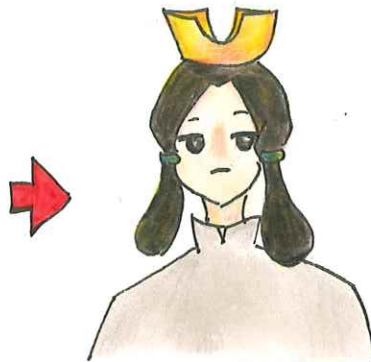
椅子に座る男子 太子塚古墳



- 首飾りをしていて身分が高い人物。
- 髪の毛は古墳島田女性で大人の巫女。



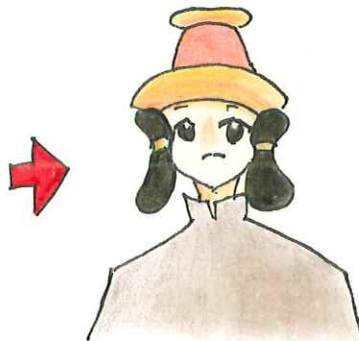
盾持人埴輪 八幡塚古墳



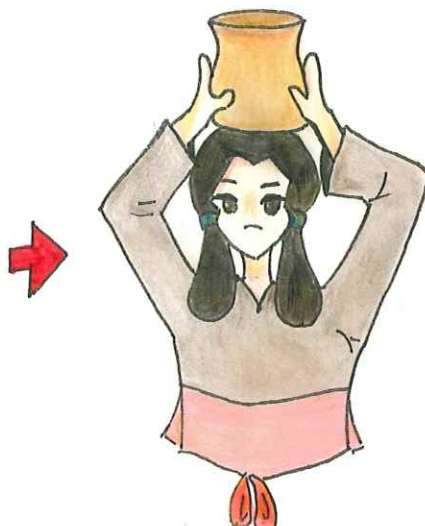
- 冠のようなものをかぶっているのでも身分の高い男子だと思い髪の毛は下げ美豆良ではないかと想像した。



壺を掲げる人



- 髪の毛は上げ美豆良男性で身分が低い。
- 古墳の中心から離れた縁に置かれ邪悪なものへの侵入を防いでいた。



- 髪の毛は下げ美豆良男性で身分が高い。
- 王に仕えていて壺の中身は杯をもった巫女に渡してから王に捧がられた。

●感想

今回埴輪から予想できる髪型について調べてきましたが、個性的な髪型が多く、研究していても面白かったです。また古墳時代の髪型だけでなく他の時代の髪型についても調べてみたいと思いました。私は髪があまり長くなかったので美豆良や古墳島田は小さくしかできませんでした。昔の王や女性のように大きくつくるのならば髪の毛は40cmほどの長さが必要だったのではないかなと思います。また、現代では髪はほぼ毎日洗うものなのでさらさらして古代の髪型を再現するのが難しいのかなとも考えました。埴輪にはいろいろな役割の人物や動物を交え、群像として配列されていて、ストーリー性があるので見ていてとてもすごいなと感じました。今回調べられなかったけれど、なぜ身分の高い男性は大きい下げ美豆良をしているのか、私は不思議に



思いました。そこで次のような考察をしてみました。1.武士は兜と頭の中の衝撃から身を守る役割をしていたのではないか、2.王などがたくさんの装飾をするのに適していたからなのではないか。実際にどのような目的でそのような髪型をしていたのかは分かりませんがこの研究の中でわからなかったことがわかったり、想像したりするのがとても楽しかったです。また、自分の住んでいる群馬県の歴史のすごさがわかったのでとても良い機会になったと思います。群馬県にはほかにもたくさんの遺跡や博物館があるのでこれからも古代について知りそこから発達してきた日本特有の文化を大切にしていきたいと思います。

●出典

東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～

<https://hani-gunma.jp/2021gunmatougoku/book/html5.html#page=8>

